



真野小だより

児童数：465名

No. 8

令和2年10月1日発行

学校教育目標『進んで学び合い、認め合い、実践できる子どもの育成』

過ごしやすい季節になりました

厳しかった残暑もようやくその居場所を秋に譲り、爽やかで過ごしやすい季節になりました。～暑さ寒さも彼岸まで～ まさにそのとおり。昔の人は本当にうまく云っているものだと感心します。

さて、例年より早く始まった2学期も1ヶ月が過ぎました。行き先や交通手段を変更した校外学習の先陣を切って、先日2年生が比良元気村に行きました。また、ご案内させていただいたように、10月20日（火）には体育学習参観を実施しますく予備日10月22日（木）>。例年の「運動会」「発表会」ではなく、「参観」として実施します。子どもたちの日頃の体育学習の様子をご覧ください。消毒や検温、多数の保護者と児童との接触回避対策、3密回避等ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

いよいよ、読書の秋、学びの秋、芸術の秋、スポーツの秋・・・様々な制約・制限を受けながらではありますが、子どもたちにとって「実りの秋」になるよう教職員一同努めます。

また、人や物の動きが活発になるのに伴って、どうしても気が緩みがちになりますが、感染者は毎日のように確認されているのが現実です。先日は近畿地方の小中学校でクラスター発生のニュースもありました。気を引き締めて感染症対策を継続して参ります。

見直してみよう 「はきものをそろえる」 ～ 脚下照顧 ～

数年前にある詩に出会いました。読んだとき、びたっと心に収まりました。自分自身が「あたりまえのことがあたりまえにできる」ことについて考えることが多くなっていた時期でした。後に禅宗の脚下照顧の教えをもとに藤本幸邦（こうほう）住職が作られた有名な詩であることを知りました。



幸邦師は、戦争が終わった頃、東京上野で戦災孤児3名を引き取り、円福寺で家族同様に育てておられました。その後、引き取る孤児の数が増え、30人にもなったそうです。そこで養護施設として愛育園を立て、その愛育園で大事にしている教えの一つが「はきものをそろえる」でした。

そういえば禅の修行寺の玄関に「脚下照顧」という札が立てかけてあるのを見たことがあります。「自分の足下を見よ」「自分の行いを見よ」という意味ですが、それを子どもにもわかるように、そして、それがいつも行動として身につくようにと考えたのがこの詩なのだそうです。

「はきものをそろえる」ことは、心を一つのところに集中することであり、準備することでもあります。そして、心を整えて、次の取りかかりに気持ちを揃えていくことにつながります。このことは、すべてのことにつながります。学習の準備も同じです。授業が始まる前に必要なものをきちんと揃えておくことができれば、心構えがしっかりとできて学習が身につきます。